

不安定な相場局面時の対処法



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① VIX水準を投資判断基準に

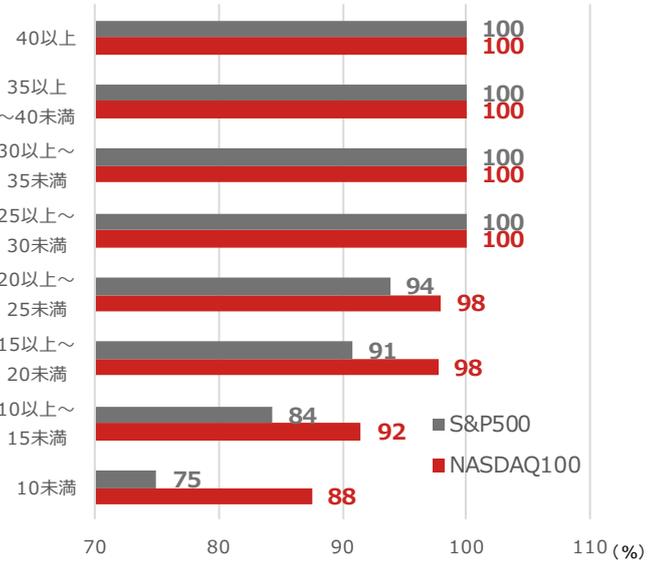
2月3日の米国株式市場ではS&P500種株価指数や、主力ハイテク株で構成されるNASDAQ100が再び大きく下落するなど、不安定な相場が続いています。背景には前日に決算を発表した大手IT企業の業績見通しが市場予想を下回り、IT大手全体の業績に警戒感が浮上したことがあります。

不安定な相場局面にはどのように対処すればよいのでしょうか。一つはVIX（ボラティリティ・インデックス：別名恐怖指数）の水準で判断することが重要といえます。VIXの水準別の1年後株価上昇確率をみると、25以上で投資した場合、1年後の株価上昇確率は2009年以降で100%となっています（右上図）。FRB（米連邦準備制度理事会）の金融引き締めペースに対する市場の警戒度も高く、VIXは今後も高水準で推移する可能性があります。そのためVIXが25を超えた時に、複数回に分けて買いを入れるというのも一手と考えます。

ポイント② ドルコスト平均法投資も有効

株価が不安定な局面でどこが大底か判断に迷うことは多くあります。こうした際は一定額を投資し続ける「ドルコスト平均法投資」も有効な手法といえるかもしれません。リーマン・ショック後、S&P500種株価指数が明確に元の水準を回復するまで約2年3か月かかりましたが、ドルコスト平均法投資を行なった場合は約8か月で投資額がプラス転換しています（右下図）。株価下落局面で買うのは「言うは易し、行なうは難し」ですが、現時点で米企業の業績拡大は少なくとも2024年末まで続くと考えられています。下げた時に買いを入れることでその後の長期リターンは大きく変わります。現在のような局面では長期目線で投資を継続することが肝要と考えられます。

VIXの水準別の1年後株価上昇確率



期間：2009年1月2日～2022年2月3日、週次

・縦軸：VIX水準

・横軸：1年後株価上昇確率

・VIXとは米シカゴ・オプション取引所が、S&P500種株価指数を対象とするオプション取引の変動率を元に算出、公表している指数。一般的にVIXの数値が高いほど、投資家の先行き不透明感も強いとされる。

（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

S&P500種株価指数と同ドルコスト平均法投資時の動き

（リーマン・ショック直前週 = 100）



期間：2008年9月12日～2010年12月31日、週次

・ドルコスト平均法投資は上記期間の毎週末に一定額を投資し続けた場合の時価評価額上記は過去の市場指数を基に野村アセットマネジメントが算出したシミュレーション結果であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

算出過程で取引コスト等は考慮していません。市場指数そのものに投資することはできません。

（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一の見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。